

行政報告

市議会9月定例会が8月30日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から、主なものの要旨をお知らせします。

市制施行60周年記念式典

7月23日、市民文化会館で行われた記念式典には、来賓のかたをはじめ、東日本震災により本市へ避難されている方々や多くの市民の皆さんに出席をいただき、60周年の節目とともに祝いました。

式典では、明石康氏を名誉市民として表彰し、その功績を称え、また、市勢発展に寄与された野口長三郎氏と村松進氏の二人に感謝状を贈呈しました。行政協力員大会では、永年勤続者14名の表彰を行いました。

引き続き開催した東日本大震災復興支援コンサートでは、海上自衛隊大湊音楽隊が「がんばろう！東北」をテーマに力強い演奏を披露し、復興への思いを新たにしました。

この60周年を契機に、改めて市民の一人ひとりが安心して誇りを持って暮らしていける大館市の実現と、さらなる市勢の発展に向け、全力で取り組んでいきます。



市民文化会館で行われた記念式典

節電への取り組み状況

東日本大震災の影響による電力不足に対応するため、6月15日から9月9日までを期間として、すべての市有施設において、従来の環境マネジメントシステムの運用に加えてさらなる電力使用量削減に取り組みました。

電力使用ピーク時間帯における15%の使用量削減を目標とし、市有施設全体の照明や空調、パソコン等の使用制限を実施した結果、本庁舎における

7月の電力使用量は昨年度より1万3206キロワット、39・3%の減となる2万3766キロワットになりました。また、三ノ丸庁舎では、蛍光灯173本のうち154本をLED照明に切り替える作業を完了したところで、今後とも電力の供給不足が見込まれることから、市では率先して節電への取り組みを継続しますので、市民、事業者の皆さんの、一層のご理解とご協力をお願いいたします。

放射性セシウムを含む腐葉土の調査及び牛肉の流通状況

秋田市内のホームセンターで販売された栃木県産の腐葉土から高い数値の放射性セシウムが検出されたため、本市においても、市内ホームセンターの製品及びそれらを購入・使用した学校、保育園の花壇などで空間放射線量を測定しましたが、結果はすべて秋田県内の通常環境レベルであり、問題はありませんでした。

また、放射性セシウムを含む稲わらを与えられた可能性のある、福島・群馬・宮城・岩手県産の牛肉が本市でも流通し、販売されていた事例が4件確認されました。

秋田県では既に8月2日から放射性物質検査による異常の有無についての全頭検査を実施しています。今後は安全性が確認されたものだけが流通することになりますので、市民の皆さんが安心して購入できる体制が確保される

ものと考えます。

放射性セシウムを含む焼却灰の取り扱い

県外自治体から搬出された一般廃棄物の焼却灰に放射性セシウムが含まれていたことに伴う今後の対応については、秋田県、大館市及び小坂町の協議で、国の基準値である1キログラム当たり8千ベクレルを超えるものは受け入れを認めないことにしました。

今後の受け入れに当たっては、排出自治体と処理業者のそれぞれに発生した焼却灰の放射性セシウム濃度を測定させ、さらにそれを搬出する前にも両者に全ロットの空間放射線量を測定させて、基準を超えるものは受け入れない方針です。

また、搬入後も処理業者に全ロットの空間放射線量の測定を義務付け、基準を超えた場合は排出自治体へ返送させるという、3重のチェックで対応することにします。

さらに、最終処分場の管理計画においては、県の指導のもと処分場内の空間放射線量を県内の通常レベルに準じた0・1マイクロシーベルト毎時以下に保つことを要求しています。

焼却灰の処理については、市民の安全、安心を最優先とし、このたびの大震災における被災地復興の側面支援として、議会に相談しながら、今後の取り扱いを決定していきたいと考えています。